

1 事業内容等

活動名	あきおおた国際音楽祭 企画・運営への参加
教育活動区分	⑦地域におけるにぎわいの創出
教育活動テーマ	高校生の演奏会運営を通じた地域活性化
連携する市町	安芸太田町
連携する企業・団体等	あきおおた国際音楽祭実行委員会

2 活動の目的

あきおおた国際音楽祭は、安芸太田町において唯一世界で活躍する演奏家の音楽に触れることのできる重要な文化イベントである。この音楽祭開催は、町の活力向上やにぎわいの創出につながっており、圏域内市町の住民の交流の機会のもととなっている。少子高齢化が進む中、イベントを運営する上で若者の参画も重要なものとなってきている。そこで、高校生がイベントの企画・運営へと携わることで継続的な実施について検討・提案を行い、さらなる安芸太田町の活性化につなげることを目的とする。

3 活動の内容

- ① 実行委員会と連携し、企画・運営等を行う。
- ② 配布するパンフレットの作成に携わる。(プログラムノートの作成等)
- ③ 実行委員会と連携し、安芸太田町内の企業へ広告・協賛の依頼を行う。
- ④ SNS等で音楽祭の告知を行う。

4 期待される効果

企画運営から生徒が携わり、世界的に活躍されている演奏者の方々と交流することができる貴重な体験となる。また、生徒自身が運営をする過程で行動力やコミュ

ニケーション能力が高まり、将来様々な企画運営の中核を担うなど、人材育成にもつながることが期待できる。さらに、地域企業への協賛金の広告依頼を行うことを通して生徒自身が地元の方々と関りをもち、交流の機会を広げ、高校生と地域のつながりがさらに深まることが期待できる。さらに今年度は、被爆80年という節目の年でもあったため、プログラムに平和を祈念するものを取り入れ、生徒自身も平和について考える機会となるだろう。

5 実施スケジュール

令和6年度		6年前からあきおおた国際音楽祭に携わり始め、4年前から企画・運営にも携わるようになった。
令和7年度 (実施年度)	9月 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽祭の企画、運営を実行委員会と連携し行う ・演奏家から提示された曲目をもとにパンフレットの作成 ・安芸太田町内の企業へ広告・協賛依頼 ・SNS等での音楽祭の告知
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等での音楽祭の告知 ・あきおおた国際音楽祭の前日準備、当日運営の実施
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・成果報告資料、実績報告資料の作成
令和8年度		令和7年度までの実施内容等を踏まえ、引き続き継続的に事業の実施に取り組む。

6 活動の報告および成果

令和7年度はヴァイオリン：甲斐摩耶^{かひまや}氏、チェロ：熊澤雅樹^{くまざわまさき}氏のデュオから始まり、ブルガリア出身のピアニスト、エマニュエル・イワノフ氏の演奏につなぐプログラムとなった。本校生徒は受付から司会進行、会場内での演奏家や来賓の案内も行った。

年度当初から、実行委員会と代表生徒（本校軽音部部長をはじめとする生徒4名）でパンフレットの作成や当日の運営等について事前に打ち合わせを重ねた。実行委員会や部顧問に助言をもらいながら、これまでの経験も生かし、必要な役割を考えた。9月に入り、活動の主は町内企業への広告・協賛依頼となった。本校軽音

部部員全員を複数のチームに分け、安芸太田町内各企業へ協賛依頼に赴いた。はじめは実行委員会役員とともに伺い、その後は部顧問の指導の下、生徒たち自身で各企業にアポイントメントをとり、協賛依頼活動に努めた。結果、協賛いただいた企業全体のおよそ40%を占めることになり、生徒たちは一つの演奏会の実施に多くの人々やお金がかかわっていることを実感することとなった。また、協賛いただいた企業の多くが「高校生が主体となるならば」と好印象を持っていただき、好意的に協賛いただくことができた。

告知については町と協力し、町内放送等も活用し告知等を行った。本校では生徒主体で運営しているInstagramがあるため、当該運営チームと協力しながら情報の発信を行った。

本番前日は朝から現地に赴き、実行委員会メンバーの指導の下、反響版の組み立てを行った。その後は担当生徒によってホール音響、照明のセッティングを行いつつ、司会生徒の立ち位置の確認や、タイムテーブルに沿った動きの確認を行った。その他の生徒は、ステージ上生花の作成や受付の設置、配付プログラムの準備等を行っていた。

本番当日も朝から現地に赴き、演奏家が到着すると、直前のリハーサルを鑑賞することになった。リハーサルが終わり、開場時間を前に多くの来場者が会場入口で待っていたが、生徒たちは実行委員会と協力し来場者のおもてなしに努めた。

開場時間になり、200名を超える来場者の受付はすべて生徒で行った。事前に手作りした整理券の番号に従って、生徒たちは来場者が円滑に入場できるように努めた。音楽祭の進行は実行委員会の指示の下、原則生徒が行った。司会生徒の挨拶からはじまり、演奏者の紹介等を行いながら進めていった。音楽祭の進行は実行委員会の指示の下、原則生徒が行った。司会生徒の挨拶からはじまり、演奏者の紹介等を行いながら進めていった。エマニュエル・イワノフ氏の演奏は、ジェフスキー作曲「不屈の民」であった。難解な楽曲であったが、作曲家や演奏家の思いに間近に触れ、生徒たちは音楽が持つ力を大きく感じる事となった。

本番中、急な体調不良者が発生したが、運営生徒同士で機転を利かし、会場へ医療従事者の支援の呼びかけや、実行委員会と綿密なやり取りをし、事なきを得た。生徒たちは終始緊張していたが、特に演奏家や関係者から多大な評価を得た。終了後アンケートにも「高校生が運営している姿はすばらしい」「毎年引き継がれていて

素敵だ」とお褒めいただくことができた。

成果として、期待されていた人材育成の面では大きなものになったと考えられる。令和8年2月に開催された「加計高発！体験活動報告会」では、音楽祭に関わった生徒が舞台監督、照明、音響などの報告会運営の中核を担うことになった。生徒たちは音楽祭での経験を生かし、報告会の動きが円滑になるよう方々と折衝しながら準備を行った。また、音楽祭終了後も地元住民や協賛いただいた企業からお声がけいただく機会が多くあり、高校生と地域のつながりは年を経るにつれて深まっている。

